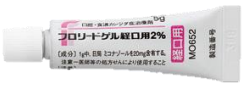
医薬品情報 NEWS　　2024.1.26　薬剤科

口腔カンジダ症について

カンジダは口腔、消化管、膣、皮膚に常在している酵母様の真菌です。口腔カンジダ症は、免疫力の低下や、抗菌薬投与による菌交代、口腔内の不衛生や他の病変などが発症要因として考えられ、口腔粘膜あるいは舌に白色の偽膜あるいは白苔が散在性あるいは融合性に付着し、軽度の炎症性潮紅を伴います。

口腔カンジダ症治療

通常は局所療法を行い、局所療法が無効、あるいは使用困難な場合に内服療法を行います。

一般名	商品名	製剤写真	用法・用量	
ミコナゾール	フロリードゲル経口用(2%)		1日200～400mg(2本～4本)を4回に分け、口腔内にまんべんなく塗布する。 病巣が広範囲の場合、口腔内にできるだけ長く含んだ後、嚥下する。 原則14日間投与。	局所療法
	オラビ錠口腔用(50mg)		1日1回、1回1錠を上顎歯肉（犬歯窩）に付着する。原則14日間投与。	
アムホテリシンB	ハリゾンシロップ(100mg/mL) ファンギゾンシロップ(100mg/mL)		通常小児に対し1回0.5～1mL(50～100mg)を1日2～4回食後に経口投与する。 口腔カンジダ症の場合、舌で患部に広くゆきわたらせ、できるだけ長く含んだ後、嚥下する。 《保険適用外》 50～100倍精製水希釈液を1回50mL、1日3～4回、できるだけ長く口に含み、うがいまたは嚥下する。 (当院では、原液を20倍希釈し、1回20mLでうがいすることが多い)	
イトラコナゾール	イトリゾール内用液(1%)		1日1回、1回20mL(200mg)を空腹時に経口投与。	内服療法
	イトリゾールカプセル(50mg)		1日1回、1回50～100mgを食直後に経口投与。	

※赤文字は当院採用薬

アゾール系抗真菌薬（ミコナゾール、イトラコナゾール等）はCYP3A4という薬物代謝酵素を阻害する作用があり、それにより併用薬の作用に影響を及ぼす可能性があり、併用禁忌、併用注意に留意する必要があります。たとえば、イトラコナゾールと睡眠薬のスボレキサント（ベルソムラ）はスボレキサントの作用を著しく増強させるおそれがあり、併用禁忌となっています。

口腔カンジダ症の治療薬は使用感や用法などの点から服薬コンプライアンスが不良となりやすいため、治療の必要性を理解することが重要です。また、口腔内を清潔に保つことも大切です。

参考文献
月間薬事2023年6月号(vol.65 No.8)　抗真菌薬選択がよくわかる表在性皮膚真菌症・新財政真菌症の薬物治療
各種添付文書、ホームページ